



環境会計

》》》 環境保全コスト

環境保全活動の実施や環境経営資源の効率化を推進していくため、1999年から環境会計を導入しています。環境保全コストについては、「建設業における環境会計ガイドライン2002年度版」(建設3団体)、「環境会計ガイドライン2005年版」(環境省)を参考に、当社の算出基準により、とりまとめました。

基本事項と集計方法

●対象範囲

東洋建設単体かつ国内活動

●対象期間

2019年4月1日～2020年3月31日

●集計方法

サンプリング+実数調査および全数調査の併用

- ① 事業エリア内コスト……………サンプリング+実数調査
- ② 上・下流コスト……………全数調査
- ③ 管理活動コスト……………サンプリング+実数調査
- ④ 研究開発コスト……………全数調査
- ⑤ 社会活動コスト……………全数調査
- ⑥ 環境損傷コスト……………サンプリング+実数調査

注：実数調査とは、サンプリングに加えた場合、1現場で原単位に大きく影響を及ぼす特殊な工事についてはサンプリングから除外し、単独でコストを上するものです。

2019年度は魚礁設置工事、マウンド礁築造工事等が該当しました。

環境会計の結果

2019年度の環境保全コスト総額は48.88億円、環境コスト比率は3.44%となり、2018年度と比べ、環境保全コスト総額は9.35億円の増加、コスト比率は0.55%増加しました。コスト比率が増加したのは、地球環境保全コストの増加が主な要因です。これは魚礁設置工事、マウンド礁築造、藻場回復工事等の生物多様性保全工事の順調な施工によります。なお資源循環コストが1.98億円減少したのは建設廃棄物排出量の削減によるものと考えております。それ以外のコスト項目には大きな差異はなく、環境活動は確実に実施されているものと考えます。

今後も、環境保全活動を効率的に実施し、環境経営に活かしていきます。

2019年度環境会計

(単位:億円)

項目	主な活動内容	2017年度費用	2018年度費用	2019年度費用
1. 事業エリア内コスト		32.29	32.92	41.39
① 公害防止コスト	大気汚染、水質汚濁、騒音、振動など	9.56	13.42	12.26
② 地球環境保全コスト	温暖化防止、生物多様性保全、省エネルギーなど	5.37	2.29	13.90
③ 資源循環コスト	建設副産物減量化、廃棄物処理費用など	17.36	17.21	15.23
2. 上・下流コスト	環境配慮設計コストなど	0.28	0.27	0.40
3. 管理活動コスト	環境関連部門コスト、環境負荷の監視や測定など	2.12	2.69	2.73
4. 研究開発コスト	環境関連研究開発費用など	2.60	2.24	2.89
5. 社会活動コスト	現場周辺美化、環境関連基金・寄付など	0.04	0.04	0.05
6. 環境損傷コスト	土壌汚染、自然破壊等の修復コストなど	1.41	1.37	1.42
環境保全コスト総額		38.74	39.53	48.88
環境コスト比率 (%)	環境保全コスト/完工高	2.75%	2.89%	3.44%